

お魚になった木の葉

THE LEAF WHICH BECAME A FISH



絵・文：キイロ アンダーソン
©Kiiro Anderson

きょうも おじいちゃんは ちかくの海へへ つりに でかけました。
つりいとを たらしながら いつも こう おもうのです。

ずーっとむかしは このうみには
お魚が たくさんいたのに・・・。



あるひのこと

おじいちゃんは 海へで つりをするのを あきらめ
うら山の 森のなかへ 木の実をひろいに いきました。

しばらく あるいているうちに ふと 森のなかのようすが
なにかおかしいことに きがつけました。

木々は枯れはて 木の葉が うずたかく つもっています。

これでは 木の実なども あるはずありません。



森のなかの 枯れ葉たちは 風がふくたび たかくまいあがり
どこかへと とんでいきました。



—まいの きいろい葉が 川のうえに まいおり
どんどん ながされて いきました。

きいろい葉は 海へと たどりつきました。
この海は まっ黒で だれも すんでいるようすも ありません。

きいろい葉は しずかに 海のそこへ しずんでいき
そこで 一びきの ちいさなお魚に であいました。

ちいさなお魚は ちいさな声で いいました。

「この海には もう すめないんだ！
ここは いきぐるしくて・・・」

「むかしは 山から 木の実がたくさん ながれてきて・・・」

「ぼくたちは それを たべるのを たのしみにしてたのに」

「いまは なにも ながれてはこない！

もう たべるものが ないんだ・・・」

きいろい葉は お魚くんのはなしを

森のなかまに つたえなければ と おもいました。

でも ながれてきた きいろい葉は 川をのぼることが できません。

すると お魚くんが 「おいでよ！」 と いって

ある ばしょへ ひっぱっていきました。



「いったいここは どのなのだろう？」

そこには おおきな枯れ葉が よこたわっていました。

この老いた葉は むかしむかし

まだ 山も海も げんきだったころに ここに たどりついた木の葉で

この海のことを ずっと みていたのです。

老いた葉は きいろい葉に きがつかしました。

「おまえは だれだ？」 「ぼっ ぼくは・・・！」

きいろい葉は すこしびっくりしましたが

お魚くんからきいた話をしました。

そして 川をのぼり 森のなかまに しらせたい と いいました。

この老いた葉は とおいむかしのことを おもいだしていました。

「よし！ おまえを お魚にしてやろう！」





老いた葉は この海が
こんなになってしまったことを なげきながら
ちからいっぱい さげびました。
すると 老いた葉は まっ赤にひかり
もえつきてしまいました。
きいろい葉は まいあがり きいろいお魚に なっていました。
そばには ちいさな ふくろがあり
なかには 木の実が はいっていました。

お魚になった木の葉は 木の実はいった ふくろをもって
なんにちも なんにちも 川をのぼっていきました。



やっとのおもいで 森のおくの池に たどりつきました。
池のよこには 枯れたおおきな木が たっていました。

だけど なかまの木の葉たちは だれもいません。




きいろいお魚は ふくろの奥に 一まいのてがみを みつけました。

森のふくふくと、のぼっていくと、
ちいさな池があります。
しずかなこの池には、なが～い水だに
とまどき とまどきよい風がふき、
とまどきとまどきの雨もふりだします。
池の中にたまった雨は川にながれだします。

風がふきはじめたら、木の葉を
雨にながさないように、
おおきな木の下に、
かくしなさい。

えまより。



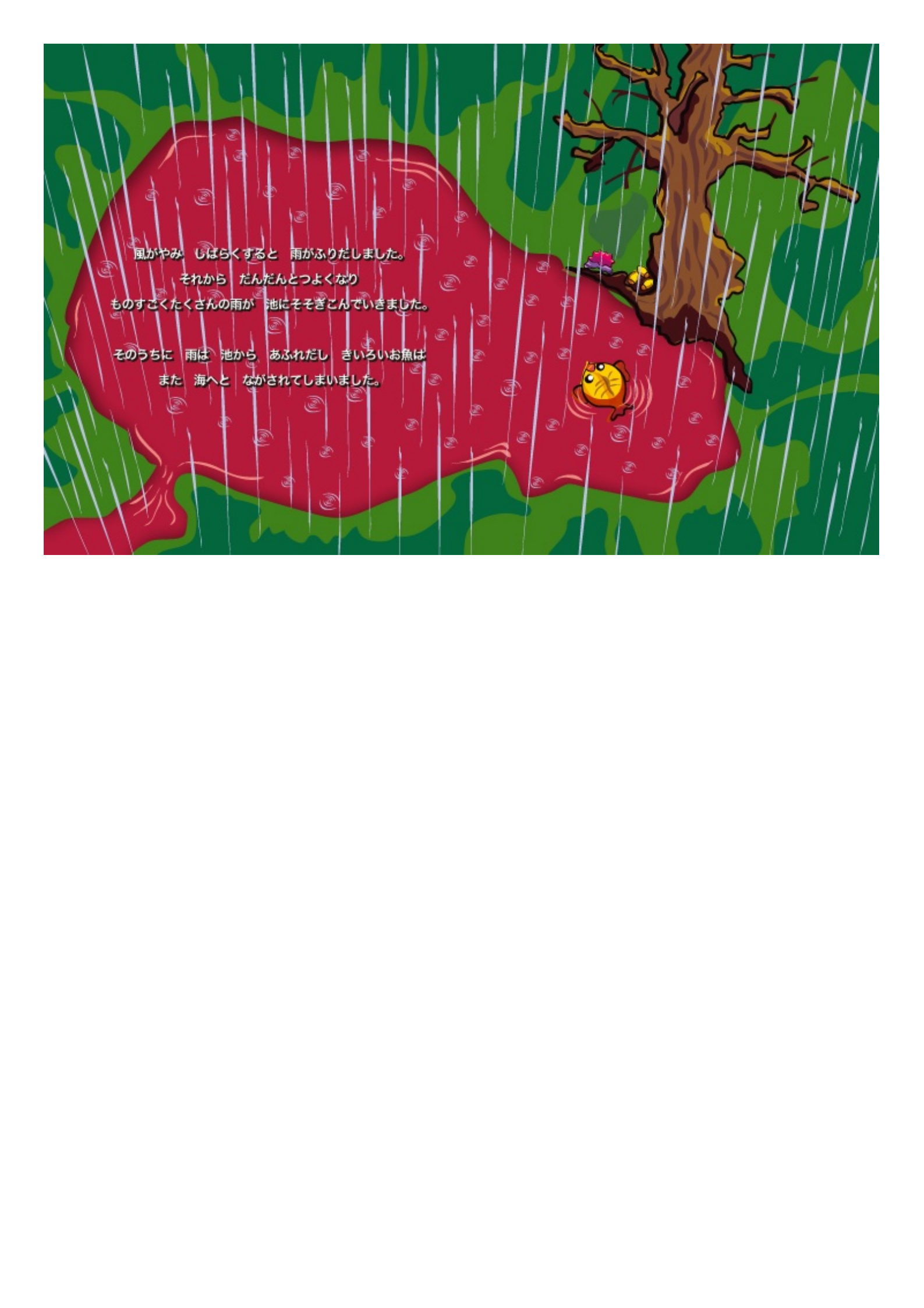


それから なんにちかすぎた ある日のことです。
一まいの枯れ葉が とんでいきました。
なかまの木の葉でした。

そのうちに なんまいも なんまいも 木の葉が とんできました。
だんだん 風はつよくなり
とてもつよい風が ふいてきました。

「あっ この 風だ！」と きいろいお魚は さげびました。
おおきな木のしたに しっかりと 木の突をかくしました。

ますます 風は つよくなっていきました。



風がやみ しばらくすると 雨がふりだしました。
それから だんだんつよくなり
ものすごくたくさんの雨が 池にそそぎこんでいきました。

そのうちに 雨は 池から あふれだし きいろいお魚は
また 海へと ながされてしまいました。

もう どれくらい すぎたのだらう？

木の実は すくすくとのびた 木になり
枯れていた おおきな木にも
みどりの葉をつけ 実もつけています。





しばらくすると 木の葉や 木の実が 池にころがり
なかよく 川のなかを ながれていきました。



木の葉と木の実は 海へと たどりつきました。
ふしぎなととに 海は むかしのように すきとおって
あちらこちらから お魚たちも あつまってきました。
木の葉が はとんできた木の実は どちそうで おおはしゃぎです。
きいろいお魚くんも 木の葉のなかまに あえて
うれしさを いっぱいです。



おじいちゃんは
海で楽しんでお遊んでいる
お魚たちをながめながら
ニコニコと つりいとを たれていました。